



令和6年度 とくしま集落再生表彰

阿波あかね会

幻の染料「日本茜」を三好の新たな誇りへ 古の「赤」が彩る観光と継承の物語

徳島県三好市の山間に自生する、日本最古の染料植物の一つである「日本茜」。かつて日の丸や平家の赤旗を染めたとされるこの「幻の赤」を現代に蘇らせ、地域の新たな観光資源として育てるべく、令和3年に前身の井川茜保存会『茜の杜』を発足し活動を開始。その後、地域振興と文化交流を目的として独自に活動を展開し、令和4年に「阿波あかね会」を設立した。

活動の要となるのが、市場への流通が極めて少ない日本茜の保護と栽培技術の確立。徳島県立農林水産総合技術支援センターと連携し、自生株から効率的な栽培に成功。この希少な染料を用い、観光客向けの染色体験や、スカーフ等の製品開発・販売を行っている。さらに、藍染作家や華道家と連携した展覧会を開催し多くの来場者を集めるなど、その魅力の発信と認知拡大にも力を注いでいる。

また、地元・池田高校の生徒と共に茜の栽培や「平家の赤旗」の復元、和紙アクセサリーの制作を行うなど、次世代への継承も活発に取り組んでいる。「阿波藍」の青に対し、三好の「茜」を徳島を代表する色として発信し、歴史と自然を活かした地方創生に今後も取り組んでいく。

阿波あかね会

- 住所／徳島県三好市井川町岡野前24番地
- 代表者／西村 宏昭
- 連絡先／080-4822-1215



(写真上)染色体験を終え、自らの手で染め上げた作品を広げる観光客。それぞれ異なる絞り模様が美しく浮かび上がり、日本茜の鮮やかな色が参加者を笑顔にしている。

(写真下)池田高校と連携して取り組む「実寸大平家の赤旗復元」。地域に残る伝説と日本茜の歴史を結び付け、色褪せた旗を当時の鮮やかな赤色で現代に蘇らせている。